

E 19 親子同居住宅における義理親子関係の調和——東京都、大阪市の場合

お茶の水女大家政 湯沢雅彦 ○長谷川紀子

(目的) 老親と息子夫婦が同居する一般住宅での義理親子(嫁-姑)関係の良好、非良好に同居経緯、生活設備の分離度合、役割分担、性格等の諸要因がいかに影響するかを実証的に検討する。

(方法) 調査票を嫁用、姑用と2種類作成し、昭和57年6月～9月に、東京都内3区、大阪市内4区で、嫁-姑402組に対し留置調査を実施した。対象者組中から、現状同居に対する満足度、良好・非良好度合、会話状況から判断して、嫁-姑関係良好組100組、非良好組100組を選び、それぞれの諸要因との相関を分析した。

(結果) 嫁-姑関係良好に影響する主な要因は、自然に同居を開始していること、親夫婦にもある程度経済力があること、親・子夫婦間で生活設備を分離させており、専用化が進んでいること、姑が、家庭内外での役割を負っており、孫のしつけについてはあまり関与しないこと、性格的には、嫁は「あっさりしていて、楽天的」、姑では「友人が多く、外出好き」「あっさりしていて、楽天的」等であることが明らかになった。反対に、親夫婦の健康状態の悪化、不本意な同居開始理由、生活設備の共有度が高いこと、姑が「友人が少なく、外出嫌いである」こと等が非良好に影響することがわかった。また、良好組では、嫁-姑間と家族全体の接触度合が密であるが、非良好組では、親と子夫婦が夕食を共にする回数も減り、孫も祖父母から疎遠になる傾向があることがわかった。